

◇日時 2024年1月23日(火) 19時～20時30分

◇方法 Zoomによるオンライン方式

◇参加者 17名

◇実践報告 奈良県大和郡山市立片桐西小学校 中澤哲也先生

小学校6年 総合的な学習の時間 「片西平和学習 ～よみがえる中島地区の笑顔～」

【実践概要】

○教材について

AIとカラー化した写真でよみがえる

戦前・戦争

庭田杏珠 × 渡邊英徳
(「記憶の解凍」プロジェクト)



1冊の本との出会い

「AIとカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争」(光文書新書)

白黒写真をAIによってカラー化する取組

カラー化することで当時の生き生きとした人の営みが感じられる

「記憶の解凍プロジェクト」庭田杏珠さん(東京大学学生)

「カラーの写真に目が慣れた私たちは、無機質で静止した『凍り付いた』印象を、白黒の写真から受けます。このことが、戦争と私たちの距離を遠ざけ、自分ごととして考えるきっかけをうばっていない

でしょうか?」(著書より)

出版社を通じて庭田さんとコンタクトをとる

いっしょに授業に取り組んでもらう

カラー化された被爆前の中島地区の様子をみることで、歴史的に遠くになってしまいがちな出来事と自分たちの生活を重ねることが可能となり、より平和とは何かを自分ごととして深く考えるきっかけになるのではないか。

1学期末 アニメ「ヒロシマに一番電車が走った」を視聴

この時点では、児童の多くは戦争や原爆と今の自分たちとの生活は遠くかけ離れたものと認識。

で原爆が投下される前の人々の生活に視点をあてたり、平和を語り継ぐ活動を続ける庭田氏との出会い、交流する活動を通じたりして、平和とは何かをより自分事として考えられる児童の姿を求めたい。

○実践の内容

1. 原爆や核兵器について各自で調べ学習

2. 家から思い出の写真を一枚持ち寄せ、いつ、何をしている時かなど、語り合う

3. 庭田さんの活動を知る

なぜ、庭田さんはモノクロ写真をカラー化したのだろうか?

4. 庭田さんとオンライン交流 → 被爆前の中島地区に関心を持つ

庭田さんの思い

- ・自分も広島市出身だったが平和教育は苦手だった。
- ・小学5年生の時に、中島地区の被爆前の写真に出会い、今とは変わらない現実がそこにあったことに気づき、それを伝えていきたいと感じるようになった。

- ・高校 1 年生の時に、平和公園で濱井さんと偶然出会い、当時のアルバムを見せてもらった。
- ・初めてカラー化した写真を見た時は被写体がまるで今を生きているように感じた。
- ・カラー化した写真を見せると。濱井さんが今まで思い出せなかった思い出が次々と出てきた。
(記憶の解凍)
- ・平和記念公園では原爆が投下される前の中島地区の生活を思い浮かべながら歩いてほしい。

5. 庭田さんと一緒に平和記念公園を歩き、「記憶の解凍アプリ」を使って、当時の様子を紹介する



6. 平和記念資料館の見学など、広島での平和学習
7. 市内の小学校と交流 (互いの学びを共有する)
8. 「自分にとって平和とは何か?」「それを守り続けるためには…」(予定)
9. 庭田さんにオンラインで自分たちの考えを伝える (予定)

【意見交流から】

- 学習を終えたときの子どもの具体的な姿をどうイメージしているか？
→ 原爆投下前、戦前は、今と同じようなあたり前の日常があった。
それがなくなってしまうようにするためにはどうしていくかを、自分事として考えさせたい。
- 発信するにあたって何か配慮しようと考えていたことは？
→ 実際に歩いた中島地区の戦前はこんなところだったという被爆前に視点をあてさせた。
- カラー化によって、かえってリアリティを感じすぎてしんどくなるような子どもはいないか？
→ 写真ではそうではなかったが、資料館に入るときにそういう子どもがいた。
もしかしたら、その直前の写真でそうなったのかもしれないが。
- 庭田さんと子どもたちとの出会わせ方、距離感は？
→ 写真を見せたことで一気に庭田さんへの興味がわいた。年齢が近いことで親近感をもっていた。
庭田さん自身も平和学習が苦手だったというところも親近感が強まった。
- 平和学習…日常のあたり前の重要性に気づくことができる。そこが大切なのではないか。
- 戦争や平和を自分事に捉えることは難しいが、それができつつあることに実践のよさを感じる。
- 最後にテキストマイニングとあるが、すでに言語化しているのだから必要ないのではないか。
- カラー化した写真に吹き出しをつけて考えたり、このあとのストーリーを4コマ漫画などで考えたりするというのはどうだろうか。よりリアルな日常として考えられると思う。
- 現地交流などもできたらもっとよかったかも。
- 「平和って何?」をもっと自由に考えさせたい。いろんな世代からも平和について聞き取りをする中で自分なりの考えを持たせられたら。

- あたりまえの日常がいきなりなくなるかもしれないからこそ、今の大切さを感じさせたい。各自が持ってきた楽しい写真をもう1回使えるといいかも。
- 自分も庭田さんと同じように、平和を追求していく一人なんだというところには高めたい。
- 市民はいつも国の意向に巻き込まれる。政治に関心を持つことが重要。
- 日本の現状がいかに平和であるかを実感することが大事で、小学生ではそれで十分では。
- 「小学生ではできない」ではなく、「小学生だからできる」ことがあるはず。
- 一人でできること、みんなとならできること、今できること、この先ならできることなど、自由に出てきた意見を分類していくと具体的にできることが見えてくるのでは。
- 災害とは違って、戦争は人と人が起こすものなので、そのあり方によっては防ぐことができるものであるということは捉えさせたい。
- 庭田さんのように、様々な形で平和を追求している人がたくさんいることを調べてみることもいい。
- 最後の発信は、若い世代で活動されている人たちにも聞いてほしいし、フィードバックがもらえるとより学びが深まると思う。